

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1502
施設名	目黒天空ちとせ保育園
施設所在地	目黒区東山 2 - 7 - 1 4
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

< テーマ >

1表現

< テーマの設定理由 >

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）年長児を中心に自由遊びや表現遊び・劇ごっこの中で、友だちとイメージを共有しながら遊びを楽しむ姿がみられていました。その遊びを観察する中で、友だちの表現を受け入れ共感したり、友だちに伝わるように表現したり、等など、今後子どもたちが人間関係を広げ、深めていくための力を頼もしく育んでいると感じました。そこで、さらに遊びを発展させるため ごっこ遊びの素材を増やしたり、劇ごっこを発展する見せ方のヒントを得る共通体験として観劇の共通体として劇団を招いての観劇を行いました。観劇後の子どもたちの遊びや表現の広がり期待しながら子どもたちの声や姿と対話して活動を展開してきましたので、そちらの内容をご報告いたします。

2. 活動スケジュール

自由遊びの中でのごっこ遊び、お話ごっこの体験 ➡ 劇団「こばん」による「おむすびころりん」の観劇 ➡ 保育室の製作コーナーにてペープサートづくりの活動 ➡ 子ども主体の人形劇実演やコンサート開催 ➡ 生活発表会の創作劇

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）●共通体験としての観劇の場の設定●観劇後のペープサート作成につながるための保育者のロールモデル●人形劇作成後の実演が盛り上がるためのシアター台購入●年長児のアイディアを受けての2歳児への発表の体験●生活発表会の創作劇のテーマ設定

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

劇団の人形劇の観劇後、年長児から再現してみたいという声が挙がり、保育者が簡単なペープサートの遊びを提案したところ、保育者のモデルに刺激を受けて、年長児自身がそれぞれの発想でペープサートを作成して楽しみ始める。その後、保育室にシアター台を用意したことでクラスの中で造ったものを見せ合う姿が自然とでてくる。その中で、人形劇のみでなくライブを創って違うクラスにも見せたいという子どもの発想からライブの内容を児同士で相談したりチケットや飾り付けを考える活動に展開する。子どもたちが創ったものを披露する場として年長クラスのグループタイムに2歳児を招待する。2歳児の憧れのまなざしを受けながら自信を持った年長児は、12月の生活発表会の創作劇の役のイメージや衣装・小道具などの制作に意欲的にアイデアを出しながら準備をすすめる姿がみられた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) ●人形劇の観劇後にクラスで感想を伝えあう機会を設けたところ、劇の内容を楽しんだ声に加え、舞台の仕組みや人形の動かし方などに着目し関心を寄せる声が挙がる ●観劇後のペープサート作成の場面では「みてほしい」と友だちや保育者に訴えたり、友だちのつくったものを「上手にできたね」と認め合う会話も見られた ●ライブごっこは「ライブをしたい」「違うクラスの人にも見てほしい」「見てもらうからきれいに飾り付けがしたい」等など、発案した児が集まり意見を出し合いながら準備をすすめていた。子どもの声を受けて担任が2歳児クラスの担任に相談をし、朝の集まりの時間帯を利用し2歳児がお客さん役となりライブごっこが実現した ●生活発表会の劇は担任からクラスで劇を創っていきたくと提案し、日々のグループタイムや活動の中で「警察官の衣装はこんな帽子がいいんじゃない」「魔女は悪い声でこんなポーズををすると思う」等、子どものアイデアを出し合いながら役の仲間と相談しすすめていく

<活動中の様子>

人形劇の観劇



ペープサート製作



発表会での劇の様子



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

●子どもの声を聞いて環境を整えたり、保育者の遊びのモデルをさり気なく準備することで子どもが自分の力で遊びを展開していく姿に感心した ●子どもが自身の表現をしっかりと認められることで他者（友だち）の表現に関心を広げ、認めあう姿につながることを今回の活動を通して実感した ●次の活動に展開するために、普段以上に子どもの気づきや会話に耳を傾けることで、子どもが主体的に集中して取り組める活動に展開できた